

(スクールプランより)

「学校」とは、生徒たちにとってこれから生きていく「社会」を現したものであり、そこで出会う教師や大人は将来出会うであろう「社会人」を抽象する存在です。

そのような「学校」に集うすべての生徒たちが、自分の「将来」に明るい希望を持ち、大きな夢を見ることが一番の願いです。そして、その「将来」に向け、身につけた実力と豊かな心で、確実な一歩を踏み出す自信を持たせたいと思うのです。

私たちはそのような「学校」を目指します。

<b>目指す生徒像</b>	(たくましい実力)	主体的に学び続け <u>自立</u> する生徒
	(明朗な和合)	社会の一員として <u>貢献</u> する生徒
	(うるわしい秩序)	他者と <u>協働</u> し新たな価値を生み出す生徒

金津中学校長の荒川誠です。

本校に着任し1年と3か月が経ってしまいました。

この間、上記(スクールプラン：ホームページにも掲載しています。)にあるように、「学校」という場が背負う使命をもとに、教職員が一丸となり職務にあたってきました。

しかしです。思いもよらなかったコロナ禍により生活環境が変わり、ウクライナ問題に代表されるように、いつまでも続くと思われていた世界平和について考えさせられています。この先5年、10年後の社会はどうなっているのでしょうか。私たちが想像する以上の変化が起きているかもしれません。いま目の前にいる生徒たちはこのような社会を生き抜いていかなければいけないのです。さらには、将来の社会は目の前の生徒たち一人一人に懸かっているといっても過言ではありません。

今一度、家庭や地域、学校という場でどのような教育が求められているのか、それを地域の方や保護者の皆様と一緒に考えたいと思いました。そのためにも、学校長としての思いを定期的(週1回程度)にお伝えしなければと思いました。

この「校長室から」をお読みいただき、ご支援とご助言をいただけたら幸いです。よろしくお願いいたします。